

出席報告

会員数	計算に用いた 会員数	出席	出席率	前々回の修正 出席率
55名	51名	41名	80.39%	100%

欠席者 影山・前野・道部・名取・尾形・荻田・大塩
白鳥・堤・内田 以上10名

他RCへの出席者 大野(10/14長泉)
前野(10/16せせらぎ三島) 以上2名

おめでとう

結婚記念日 名取賢吉君 1964.10.20
齋藤利一君 1961.10.20
吉岡宏之君 1985.10.20

こんにちは、ようこそ

ゲスト 沼津税務署長
秋山泰男様

スマイルボックス

沼津税務署長 秋山泰男様: よろしくお願ひします。

吉岡宏之君: 結婚記念日お祝ひありがとうございます。25年になりました。

齋藤利一君: 結婚記念日のお祝ひありがとうございます。署長、本日はご苦勞様です。

山本倫弘君: 秋山署長、卓話よろしくお願ひします。

伊東哲夫君: 秋山税務署長に卓話をお願ひしました。

奈良橋篤君: 卓話を楽しみに来ました。

大貫隆弘君: 10/13の宮路君、佐々木君の入会式ありがとうございます。今後とも御指導よろしくお願ひします。

Aテーブル: テーブル会残金です。

卓話

池波正太郎の世界一田沼意次

沼津税務署長 秋山泰男様

本日は私の好きな小説、池波正太郎の「剣客商売」に出てきます田沼意次を題材にお話を進めさせていただきます。



■田沼意次について

一般に田沼意次と言いますと、「希代の悪」「悪徳政治家」そして「賄賂の帝王」などのイメージが大変強く、時代劇での台詞である「越後屋お前も悪よのー」を思い出されるのではないかと思います。しかし池波正太郎の小説の中では、国の行く末を憂い、国力を富ますために日夜苦勞している姿が描かれています。

田沼主殿頭意次は遠州相良藩2万石(失脚前には加増されて5万7千石になっている)の大名であり、藤枝宿から相良に続く道は今でも「田沼街道」としてその名が残っていますが、意次は江戸に住むことを義務付けられた「定府大名」であったことから、この街道をとお国入りしたのは2回だったと言われています。

田沼意次は相良藩では善政を施し、領民からも慕われたとも言われています。なぜ、そのような「名君的殿様」が「悪徳政治家」「賄賂の帝王」と称され、後世までその悪名を残しているのでしょうか。

■松平定信との確執

「剣客商売」においても題材とされていますが、これは奥州白河藩藩主、後に老中、副将軍にもなった松平定信との確執ゆえと言われています。

松平定信は8代将軍徳川吉宗の孫に当たり、徳川御三卿の一つである田安宗武の子として生まれ、その利発さから10代将軍家治の後継者と目されていましたが、田沼政治を声高く批判したため その存在を疎まれ、一ツ橋治済により白河藩松平定邦の養子とされてしまいました。

このことにより田沼意次を激しく憎み、意次の死後、田沼家の居城である相良城をも取り壊してしまったと言われています。

田沼意次を評価した資料は殆ど無く、定信の残した資料から その悪名が後世まで残ったのではないかと思います。近年、田沼意次が行った政策についての見直しの機運が高まり、学者の間で研究が進められています。

■田沼意次の政策

田沼意次は、その権勢を振るった時代にどのような